

今後やっておかななくてはならないこと

今回の豪雨では、様々なことを学びました。いつも、後になってこうすればよかったということになるのですが、岡崎市も遅ればせながら、これらの対策を始めています。確実にやっておくことが必要なことを記載いたします。

- 1 発災初期の段階（72時間以内）に支援センターを運営するために、自発的に参集できるボランティアコーディネータの育成及び登録をおこなう。
- 2 発災時に速やかな支援センターを設置・運営すべく、本部員となりうる人材を確保するために、市社協、地元のボランティア組織、経験豊かなNPOと参集もしくは人材派遣協定を締結し、絶えず訓練をおこなう。
- 3 被災が大きく長期化したとき、どうしても平日のボランティアが不足してくる。もし、団体でボランティアをしてくれるところがあるのなら、登録制度を創設して（こちらから打診できる窓口を）確保する。
- 4 被災が大きく長期化したとき、避難所で災害時要援護者が長期滞在することも想定されるが、その際に要援護者に手話通訳、点字解読など支援をしてくれる団体でボランティアをしてくれるところがあるのなら、登録制度を創設して（こちらから打診できる窓口を）確保する。
- 5 支援センターを立ち上げる場所や道具（スコップやデッキブラシ等）が無くては、支援センターの機能を十分発揮させることができない。あらかじめ想定した場所と連絡ツール（例えば、固定電話回線ならば5回線以上など）、3日分のボランティア支援道具、それらを活用する「支援センター運営マニュアル」を用意する。
- 6 今回、支援センターから派遣したボランティアには、ガムテープに名前を書いて名札代わりに使用したが、「支援センター登録ボランティア」と紛らわしいボランティアモドキと区別するために、一目でわかるヤッケか名札を用意する。